



エンリッチメント大賞受賞

今回は手前味噌な話になりますが、当園の動物たちへの取り組みが、エンリッチメント大賞を受賞しました。受賞内容は新しくオープンした「チンパンジーの森」での一連の取り組みで、具体的には市民と一緒に植樹祭をして少しでも野生の森に近づける努力をしていること、人工哺育となった個体を1年4カ月という早さで群れ復帰を遂げたこと、さらには34歳という国内最高齢での初産出産にも成功したこと、などが評価されました。



チンパンジーの森建設当時

エンリッチメントという言葉はまだ日本では聞きなれない方もいるでしょうが、正しくは「環境エンリッチメント」といい動物園や水族館の動物たちが少しでも幸せに暮らしていけるような様々な取り組みのことを指します。日本ではNPO「市民ZOOネットワーク」という団体がこうした取り組みを提唱・後押ししており、この大賞も当該団体の主催で平成14年に創設されました。これまでの受賞園やエンリッチメントの詳しい情報などはそちらのホームページに掲載されていますので、ぜひ一度訪れてみて下さい。

こうした団体の活動や欧米の動物園が早い段階から取り組んでいることなどもあり、近年の動物園では、どこもエンリッチメントを意識した飼育環境を目指すようになってきました。取り組み内容も、エンリッチメントを取り入れた獣舎の更新から餌の与え方の工夫や遊び道具の導入など、お金のかかるものから簡単なものまで様々です。共通して言えるのは飼育環境の向上です。

動物園の動物たちは、採食や健康管理、捕食者からの解放といった面では、行動の制約はあれ、野生の動物たちより恵まれているといえます。しかし、本来、自分の意思で動物園生活を送ることになったわけではありません。ズーラシア在職中に物故された故増井園長の言葉を借りれば、動物たちは動物園の目的を達成するために野生から送り込まれた大使です。そういう大切な役割を担う彼らに対して、できるだけ良好な環境で迎えることは、ある意味当然のことかもしれません。

常同行動という言葉がありますが、狭く何もない檻の中で、決まった時間に決まったところに出される餌を食べる以外やることがなければそれは常に同じ行動になるのは当然です。もっとひどければ、いつもうずくまっていたり、毛が抜けたり…。精神的ストレスは相当な



市民と一緒に植樹祭



給餌の工夫・これもエンリッチメント

ものになるでしょう。

そうしたストレス軽減のために、餌の出し方やタイミングをちょっと工夫するだけでも違います。ちょっとした遊び心でロープを張ったりボールを入れてみたり。そしてできるなら少しでも活動範囲を広げ、少しでも自然環境に近づけてあげる、動物たちが退屈しないそんな取組があちこちの園館で広まってきました。動物が退屈しなければ、見ているお客様にも楽しめます。



ボールで遊ぶ水浴びヒグマ

当園でも「チンパンジーの森」を建設し、野生では樹上生活をするチンパンジーに併せ、3本のタワーをつくりました。しかしどう見ても森とはいえない。しかし予算もすでにない。そこで飼育員の発案で、市民に苗や樹木の持ち寄りを呼び掛け、市民自ら植える植樹祭をイベントの形で実施しました。そのへんは以前この欄にも書きましたのでこれ以上触れませんが、そんなイベントを4年も続けてこられたきたことから、今回の受賞は私たちだけではなく、市民の皆さんも一緒に受賞した、ということが言えると思います。

また、こうした活動の延長として人工哺育ながらも2度の繁殖に成功したこと、そのうち1頭（ゴウちゃん）は思っていた以上の速さで群れ復帰を遂げたこと、また高齢初産のマツコもよく頑張り、その息子リョウマ君も現在スクスク育っていることなど、エンリッチメントの取り組みが予想以上の効果を発揮していると感じています。そしてこれらの成功は、地道ながら日々コツコツとチンパンジーたちと正面から向き合い、彼らの幸せを願ってきた飼育員の苦勞があったればこそ、と強く思います。



少しは森らしくなったところで…ゴウちゃん一家

まだまだ森には程遠いことから、今後も植樹祭は続けようと思っていますが、ほかにも動物園内ではたくさんのエンリッチメントに飼育員たちは取り組んでいます。受賞を糧に、これからますます動物にとっても、来園者にとっても、楽しくて魅力ある動物園づくりに心掛けていきたいと思っています。乞うご期待。



リョウマも早くデビューしたいね

参考

[市民ZOOネットワーク](#) (新しいウインドウが開きます)

2012年10月15日

過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)

[令和4年](#)

[令和3年](#)

[令和2年](#)

[令和元年](#)

[平成30年](#)